



第8号 スミリン通信

平成21年11月発行

近年、温暖化の問題が大きく取り上げられ、環境問題への関心が高まっています。企業でも、利益追従の姿勢から、社会的責任が問われるようになり、環境貢献も企業価値の重要な要素となっています。今回は、弊社佐倉工場でリリースしました新商品“新ふさ太郎”のご紹介を兼ね、当社の環境事業における意義についてまとめてみました。

原材料100%千葉県由来の新規緑化専用培養土“新ふさ太郎”

平成21年4月より、佐倉工場では千葉県内の浄水場発生土の更なる有効利用を進める為、発生土有効利用を目的とした中間処理業の許可し、千葉県企業庁と水道局から発生する浄水場発生土を原料とした千葉県公共緑化工事専用の培養土“新ふさ太郎”の製造販売を開始しました。従来の“ふさ太郎”に比べて、低コストでより広範囲で利用が可能になったこと、発生土以外の原材料として千葉県の公共緑地で発生する剪定枝の堆肥を利用することで、原材料は100%千葉県からの発生物となり、千葉県の資源循環型の環境資材として注目されています。

注：新ふさ太郎は、千葉県内公共緑化工事用の商品です。

新ふさ太郎の特徴

特徴1

リサイクル商品

- ・熟成処理された浄水場発生土をベース
- ・千葉県で発生する剪定枝の堆肥を利用

特徴2

省力・少コスト

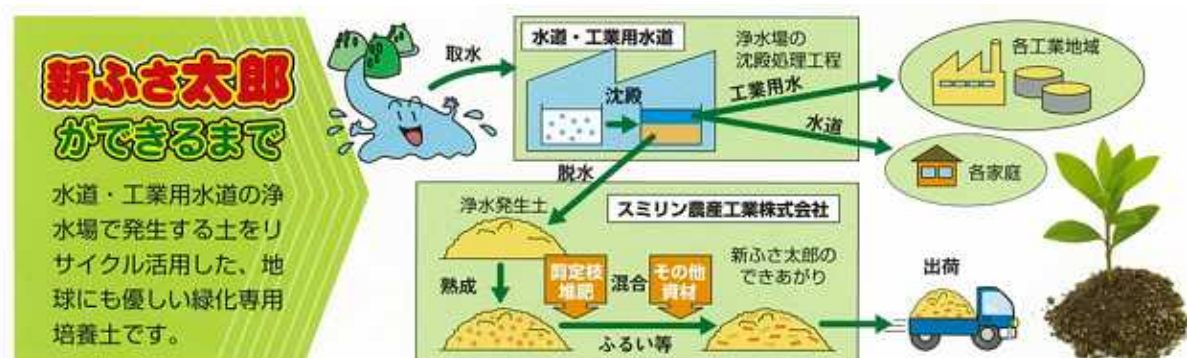
- ・幅広い需要に答えるため、畑土並み価格にコストダウン
- ・植物の生育に適する化学成分を調整しているため、他の資材や肥料等と混合することなく利用可能

特徴3

安心・安全

- ・製品や原材料の品質チェック
- ・重金属・有害物質の安全確認試験を実施

新ふさ太郎の製造工程



新ふさ太郎
ができるまで

水道・工業用水道の浄水場で発生する土をリサイクル活用した、地球にも優しい緑化専用培養土です。

千葉県のリサイクル中心基地として期待される佐倉工場

浄水場発生土は、飲料水や工業用水を作る過程で発生する副産物であり、持続的な処理により有効利用をしていくことは、私たちの生活に必要な“水”に直結する重要な課題です。多くの自治体では、埋め立てやセメント処分等で高額な処理料が必要となるため、経済的に大きな負担を抱えています。

千葉県との浄水場発生土の培養土化事業は、全国的にも珍しい官民共同事業として、注目されてきましたが、今回の中間処理業としての新体制構築及び公共緑化市場への新商品販売拡大により、千葉県の環境、経済両面に対して更なる貢献が期待されています。



豊かな自然に囲まれた佐倉工場



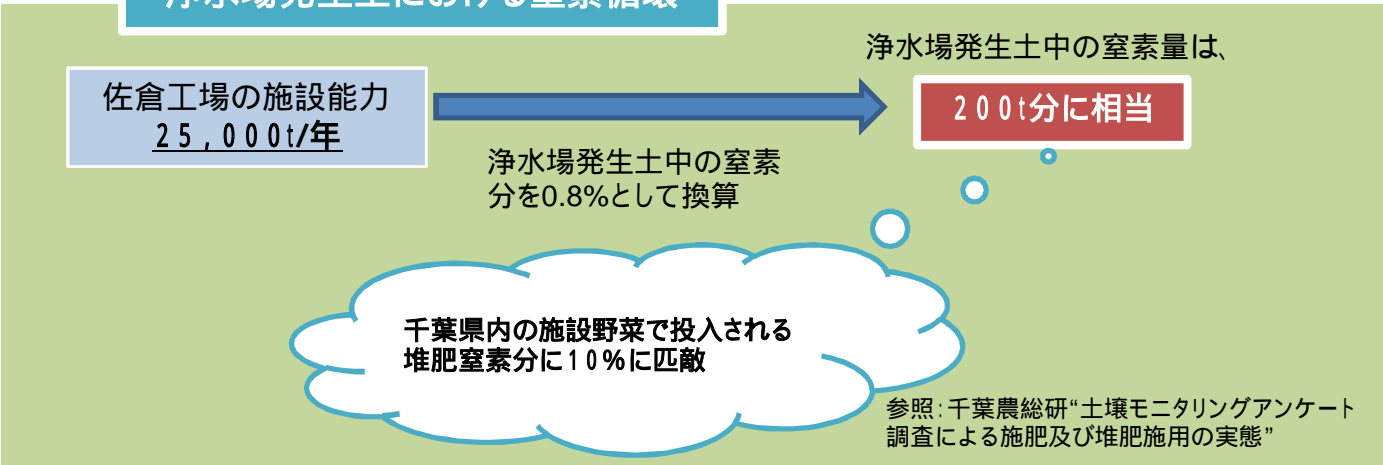
幕張新都心における“ふさ太郎”による緑化事例

浄水場発生土の有効利用による環境面の役割

浄水場発生土には、窒素をはじめ植物の生長に必要な栄養分が多く含まれています。この窒素の多くは、河川、湖沼周辺の農耕地から溶脱してきたものと思われ、浄水場発生土を農園芸、緑化用の資材として利用することは、大きなサイクルの中で資源循環になっています。

例えば、浄水場発生土に含まれる窒素分0.8%(弊社分析平均値)とした場合、佐倉工場の最大施設能力で有効利用すると、年間200t分の窒素をリサイクルすることになります。

浄水場発生土における窒素循環



スミリン農産工業株式会社

【お問い合わせ】
東海営業所 〒490-1444 愛知県海部郡飛島村木場2-59
TEL：0567-55-2320 / FAX：0567-55-2088
関東営業所 〒277-0843 千葉県柏市明原2-2-17柏ACEビル4F
TEL：04-7142-7741 / FAX：04-7142-7742